
機械の天使と主人の僕と

代具 外白

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機械の天使と主人の僕と

【Nコード】

N9843C

【作者名】

代具 外白

【あらすじ】

都会での仕事を辞め、田舎に帰ってきた主人公、守代衛司。何の変哲もない日常を送っていた彼の前に、謎の少女と巨大な剣が降りてきて……。

プロローグ：登場編

毎日、俺はそれなりに生きている。

俺が住んでいるのは海にほど近い田舎町で、昼頃に出歩いているのは、大抵が畑仕事に向かうお年寄りだ。

だから、俺みたいな若者が出歩いているのは、極めて珍しい。お年寄りは、俺の事を興味深そうに見る。

俺は仕事を辞めて、コッチに戻ってきたダメ人間だ。いくらでも笑えばいい。

そんな投げやりな事を考えて、ブラブラと歩いていく。自販機の前を通り過ぎた辺りで、軽快な足音が聞こえた。

元気なお年寄りだ。

そんなに全力疾走して、そのまま逝っちゃうなよ？

おいおい、足音から察するに、加速したぜ？ 凄いな。

「センパー……イっ!!」

「だっ!?!」

タツクルされた。間違いなく、背骨は逝ったろう。そんな事が確信できる音と衝撃だった。

「ま……雅姫」

「こんにちわ! センパイ!」

人の上に馬乗りになって、元氣よく挨拶をするこの阿呆。

笹川 雅姫。18歳。華の女子高生、その中のサボリ組だ。ショートカットの髪に、猫か何かをイメージさせる瞳。外見だけで、その活発さが想像できた。

「いやあ、今日も晴れてますねえ？それなりに寒いですが、陽が当たれば暖かいですよね？テンションも上がるってモンですよ。ねえ？」

俺は最高にテンション低いんだが。

馬乗りになっていた雅姫を半ば強引に押しつけ、服に付いた砂を払いながら立ち上がる。

「雅姫。お前、またサボりか。そのくせ、制服だけは着てるし・・・」

「へっへっ。これはもはや私服ですな」

「・・・まあ、お前の私服姿なんか見た覚えがないしな」
スカートをヒラヒラさせながら動き回る雅姫。中身が見えないか、非常に危険だ。

「ところでセンパイ、何してたんですか？」

「コンビニ行こうと思ってたんだよ。そうしたら、後ろからタックルされた。今でも背骨が悲鳴を上げてるんだが」

「はっはっは。ヤワっすねセンパイ」

「お前な。元陸上部のタックルがどれだけ強烈か分かるか？」

そう、雅姫は元陸上部で、それなりの成績を残している。そんな人間が全力疾走してブチ当たってきたら、背骨も逝くというものだ。

「さあセンパイ！コンビニ行きましょコンビニ」

「華麗に無視かよ!？」

ああ、なんで俺の周りには普通の人間が居ないんだ……。親父は研究馬鹿、母は度を越えた天然、幼なじみの後輩はコレ、そして・

「はぁ」

「センパイ、溜息つくときれい逃げろよ？」

「・・・取り返す方法を教えてくれ」

「ん、神に祈る」

「神は死んだ」

と。

それは、全く突然の事だった。

背後で、轟音。いや、爆音。

悲鳴を上げる暇もなく、俺と雅姫は軽く3メートルほど吹き飛ばされた。

「ぐっ!？」

地面に叩き付けられ、短い悲鳴が上がる。

全身が痛い。雅姫のタツクルの比じゃなかった。

そつだ、雅姫は？

痛みはあるが、体は以外にもすんなりと動いた。首を回して、雅姫の姿を探す。

「雅姫!」

居た。草むらの中で、力なく横たわっている。見たところ、大きな

外傷はなさそうだ。

急いで雅姫のそばに駆け寄り、肩を揺する。

「雅姫、雅姫!?!」

「……う……あ」

うつすら目を開けて、俺の姿を視界に捉えた。意識はあるらしい。

「クソ、何が……」

立ちこめる砂煙が、秋風に吹き払われる。

綺麗だ、と思った。

その金色の髪が。

白い肌が。

常識外れに巨大な、その剣が。

その剣に磔にされた、少女の姿が。

そして開かれた、そのグリーンの瞳。

「おはようございます。マスター」

紡がれた言葉の意味も分からずに、俺はその声色に魅せられた。

青く、あまりにも巨大で無骨な剣に磔にされた、美しい少女に。

逃れようもなく、魅せられた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9843c/>

機械の天使と主人の僕と

2010年12月31日14時29分発行